

広島神楽

定期公演 へようこそ

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。
ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- (1) 座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
- (2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
- (3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険な場合**がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
- (4) 撮影について
→写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
※**ビデオカメラでの動画撮影、フラッシュの使用は禁止**します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

撮影エリアについてのご案内

写真撮影をご希望の方は必ず、下記の撮影エリアをお願いいたします。

撮影エリア

フラッシュを使用した撮影、三脚を使用したの撮影、撮影された画像の営利目的での複製およびのり以上の動画公開は禁止させていただきます

スマホや携帯で撮った動画や写真をSNSにどんどんアップして

広島神楽の魅力を発信してください!!

11月20日のタイムスケジュール
出演:安野神楽団(安芸太田町)
19:00～開演
19:05～第一幕『戻り橋』
(およそ40分)
～幕間(休憩)～
20:00～第二幕『葛城山』
(およそ40分)
20:45～記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。本日の記念には是非ご参加下さい。また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。(舞台へは靴を脱いでお上がりください。)

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

やすのかぐらだん

安野神楽団プロフィール ~安芸太田町~

広島県山県郡安芸太田町穴本郷の鷹崎八幡神社を氏神として、明治42年11月27日に「本郷奉楽会」として結成した後、本郷神楽団となり、昭和55年に安野神楽団へ名称変更し、本年で111年となります。

矢上系六調子(旧舞)を中心に新舞も取り入れながら各地の秋祭り、イベントなどに奉納させていただいております。

先人たちが残してくれた神楽を大切に伝承しつつ「新しい創造」も行っていきたいと思っております。

今後も皆様のご支援ご指導をよろしくお願いいたします。

第一幕『戻り橋』 もどりばし

大江山、酒呑童子の手下、茨木童子は夜ごと都人に化相して戻り橋あたりに出没しては、都民たちに災いをかけます。頼光の家人、渡辺綱が主命を受けて征伐に向かいます。茨木童子は老女に化相し、通りかかった傘売り善兵衛に、傘を買うからと言って近寄ると、いきなり鬼女の正体を現します。折しも渡辺綱が通ると女に化相して京の五条まで連れて行ってほしいと頼みます。道すがら川面に映った女は鬼の姿でした。魔術を使う鬼は、襲いかかり綱を倒します。そこに岩清水の神の弊を持った坂田金時が加勢して闘い、鬼の左腕を切り落とすものの、鬼は北の空へと逃げ去っていくという物語です。

大	太	鼓	—	沖野	秋雄		
小	太	鼓	—	岡田	信昭		
手	打	鉦	—	国好	敏明		
		笛	—	伊田	智世		
渡	辺	綱	—	伊田	光志		
坂	田	金	時	—	西川	正典	
傘	売	善	兵	衛	—	辰川	和樹
茨	木	童	子	—	松本	樹	
茨	木	童	子	—	松本	樹	
酒	呑	童	子	—	沖	正紀	

第二幕『葛城山』 かつらぎざん

大和の国を一望する葛城山に棲み付き、天下を攪乱(かくらん)しようとする土蜘蛛の精魂が、都の守・源頼光(みなもとのらいこう)へ忍び寄ります。時に頼光は病に伏し、頼光の美しい侍女・胡蝶(こちょう)が典薬(てんやく)の守から薬を持ち帰るところを、土蜘蛛の精魂は襲います。そして、胡蝶になりすますと、頼光に毒薬を薬と偽って飲ませます。しかし、頼光に正体を見破られ、伝家の宝刀「膝丸(ひざまる)」で一太刀浴びた土蜘蛛の精魂は葛城山へと逃げ帰ります。頼光は、我が身を救った宝刀「膝丸」を「蜘蛛切丸(くもきりまる)」と改め、四天王にこの刀を授け土蜘蛛退治を命じます。四天王は、葛城山へ向かい精魂の妖術に立ち向かい、壮絶な戦いの果てに成敗するという物語です。

大	太	鼓	—	沖野	秋雄		
小	太	鼓	—	沖野	将希		
手	打	鉦	—	岡田	信昭		
		笛	—	伊田	智世		
源	頼	光	—	松本	樹		
碓	井	貞	光	—	辰川	和樹	
ト	部	季	武	—	伊田	光志	
胡	蝶	—	西川	正典			
土	蜘蛛	の	精	魂	—	沖	正紀